

SPARC Japan セミナー2021

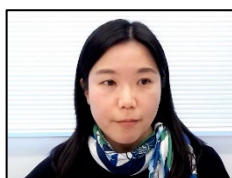
「研究データポリシーが目指すものとは」

開会挨拶 / 概要説明

池内 有為

(文教大学 文学部)

池内 有為



文教大学文学部専任講師。博士（図書館情報学）。慶應義塾大学法学部卒業（1995年）、同文学研究科図書館・情報学修士課程修了（1997年）の後、1997年から2005年までフェリス女学院大学附属図書館勤務。主婦、筑波大学大学院博士後期課程を経て、2019年より現職。専門領域は研究データ共有とオープンサイエンス。日本学術振興会人文・社会科学データインフラストラクチャー構築推進センター研究員、文部科学省科学技術・学術政策研究所客員研究官、2021年度SPARC Japanセミナー企画ワーキングメンバー。

本セミナーの概要

2021年にユネスコからオープンサイエンスの勧告が出され、オープンサイエンスおよび研究成果の共有・公開が国際的に進められてまいりました。日本においても統合イノベーション戦略 2021 によって、大学などの研究機関にはデータポリシーの策定が年限付きで求められています。このため、各機関ではデータポリシーの検討が進んでいることと思いますが、その過程において、機関の置かれた環境に応じてさまざまな課題が見え始めています。その一方で、データポリシーの策定はオープンサイエンス実現のための手段であって、それ自体が目標というわけではありません。

そこで本セミナーでは、政策関係者・大学関係者・研究データ流通関係者など、さまざまなステークホルダーが一堂に集い、データポリシーの意義と、その先のビジョンの一つである FAIR 原則に基づくデータの利活用推進のために必要な考え方や具体的なアクションは何かということについて、ざっくばらんに討論を交わし、地に足のついた研究データポリシーの策定に役立てていきたいと考えております。

本セミナーの構成

本セミナーでは、まず3名の講演者の方からご講演いただきます。初めに文部科学省研究振興局の三宅様から「研究 DX を巡る政策動向から見る研究データポリシーの役割」について、続いて、電気通信大学の田野学長から「大学が目指す共創進化スマート社会とその Science2.0 への展開」について、最後に NII の大波様から「学術情報インフラが実現する研究データの管理と循環」と題して NII 研究データ基盤（NII Research Data Cloud）についてお話しいたします。

その後、総合討論第1部「研究データポリシーをめぐる論点整理を中心に」では、データポリシーが目指す理念、科学研究をどのようにしていくのかということについてディスカッションします。総合討論第2部「研究データに関わる各ステークホルダーとの議論」では、ご講演者3名に加えて、既にデータポリシーを策定された研究機関の方、さらに SPARC Japan セミナーの企画ワーキンググループのメンバーも加わり、ポリシーの理念はよく分かるけれども、実際にやってみてどうなのか、現場として実務の上ではどんなギャッ

ブがあるのか、内部で運用した際にどのような大変なことがあるのか、そして、どんなところが肝となっているのかという論点について意見を交換できればと思っています。

SPARC Japan は、講演者の方だけではなく、会場の皆さまを加えてのディスカッションが肝だと思っています。積極的なご質問やご発言を期待しております。